

渡辺よしお通信

第10号

発行 新発田市議会議員 渡辺喜夫 新発田市西名柄(下名柄) 3129 電話22-6724 FAX22-6730

新年明けましておめでとうございます。本年も精一杯頑張ります。

12月議会報告 一般質問の要旨

新春街頭演説(コモタウンにて)の様様

薬物乱用の現状と薬物汚染から市民を守る対策について

Q(渡辺) 新発田市の薬物乱用の現状と防止策について伺う。

A(市長) 新発田警察所管内の検挙者数は8人であり、いずれも覚せい剤によるものです。保健所が主催する薬物乱用防止推進地区連絡協議会に参画しながら情報把握に努め、ポスターや広報を通じて市民に情報提供し、県主催の薬物乱用防止キャンペーンに協力していきます。

Q(渡辺) 全国的に青少年の薬物乱用が増えている。教育による対策が不可欠である。教育委員会の取り組みを伺う。

A(教育長) 学習指導要領により小学校5.6年生、中学校3年生で薬物乱用について授業で必ず指導しております。昨今の薬物乱用実態を踏まえ、警察職員等による講演会を開き、より強く啓発を行っております。

Q(渡辺) 子供達の夏休み期間中に有名芸能人の大麻や覚せい剤による逮捕で、異常なほどテレビや新聞で毎日報道されていきました。具体的な薬物の使い方、吸引方法を伝え、幻覚や快感が得られる等、好奇心の強い子供達に興味を持たせる番組は問題ではなかったか。夏休み後の学校現場の対応を伺う。又全国に8台設置している薬物乱用防止キャラバンカーの活用を検討してはどうか。

A(教育長) 夏休み後、児童生徒への薬物乱用についての指導などは改めて行ってこなかった。

薬物乱用防止キャラバンカーの活用については、学校現場などと調整しながら検討したい。



環境保全型農業を導入する農業者への支援措置について

Q(渡辺) 今年度の産地確立交付金では堆肥を活用し、農業の使用量を半減した環境保全型農業の稲作農家への交付金は減額され、野菜栽培などで県認証を受けたエコファーマーにいたっては、交付金措置も廃止してしまった。市の有機資源センターの堆肥を散布する費用を助成する制度も廃止した。.. 当市の環境保全型農業の支援についてどのように考えているのか。

A(市長) 農地、水、環境保全型農業に取り組む12集落に営農支援活動を行っている。又エコファーマーの申請時に必要な土壌分析費用の助成を行っております。引き続き環境にやさしい農業の支援を行ってまいります。